



114  
A3173  
1



千八百七十七年五月十九日刊行  
東京タキムス新聞抄譯

自由貿易ノ弊害

英國ガ自由貿易ノタメニ不満足ノ結果ヲ顯セシ  
ハ同國ノ「マンチエスター」高法會議所ノ一員タル  
「ヒューマンソン」氏ヨリ、一報ニテ之ヲ明瞭スル  
ニ足ル氏ノ証言ニ云ク佛國ハ保護税法ノ設アリ  
シヨリ其國ノ木綿製造ノ業ヲ上進シ我「ランカス  
トルシヤ」ニテ之ヲ製造スルヨリハ却テ廉價ニ  
シテ同一ノ品柄ヲ製出スルヲ得現ニ佛國ニテ臺

大正十一年四月  
隈侯爵郵寄贈



目壹磅ニ付キ三「英」三以下ノ費用ヲ以テ製造ス  
ル木綿糸ハ英國ノ紡績者ハ遂ニ其資本ヲ佛國ニ  
委スル歟否ラサレバ佛國ノ職工ヲ「英」三ニカストル  
シヤ「英」ニ招カザルベカラザルニ至ルベシ他ナシ  
佛國人ハ安全トシテ保護税ノ強壘内ニアルガユ  
ヘ終ニ一帯ノ海峡ヲ隔タル我國ノ如ク力役ト資  
本トノ争鬭若クハ外國ノ需用ノ減少ノタメニ妨  
碍サル「英」三ナクシテ愈前進スルノ状アレハナリ  
ト

日本内國貿易ノ不可欠ノ説

日本ノ事態ヲ論スルニ當リ在外各國ノ論者ガ  
ポール、メール、ガセツト爾論者ノ如ク同仁一視  
公平至當ノ論説ヲ立テナバ日本ガ外國政府ノ  
所為若クハ外國人ノ所業ニ向テ不平ヲ洩フル  
ノ「英」三ハ全ク跡ヲ断ツニ至ルベキナリ頃口日本  
ノ條約改正ナル緊要ノ一問題ニ係リ同社ノ論  
説ヲ得タリ今之ヲ左ニ掲ケテ以テ看者ニ示ス  
ベシ

日本ノ今日ノ急務トスベキ大眼目ハ内國貿易  
ヲ進捗發達スルニ在リ若シ之ヲナサズン、日

本ノ繁栄ニ赴クノ期ナク又日本ノ外國ノ通商  
ノ擴張スルノ日アラザルベシ然リ而シテ我英  
國ノ職トシテ日本ノ為ニ計謀スル処モ亦斯ニ  
アラサルベカラズ

我輩日本ノ現況ヲ觀察スルニ日本ハ保護税ノ  
種類ノ方法ヲ設ケ其歳入ヲ増加シ又随テ日本  
ノ土地ノ利ヲ起スベキ凡百ノ工業ヲ振作スル  
ニ熱心セルモノ、如シモシ日本ガ斯ル手段ノ  
ヲスアルモ決シテ我英國ハ昔年我植民地或ハ  
米國ニ拵ケルニ如ク威力ヲ以テ日本ノ通商上

ノ情願ニ干渉スルノ権利アルベカラザルナリ  
畢竟日本人ノ心願ニ拵テ我國ヲ仇敵視スルノ  
念アルハ後ニ英國ガ干渉ヲナスベシ英國ガ手  
出ラナスベシトノ想像ニ出タルニ過キス然ラ  
バ斯ル念慮ハ日本ノタメ且英國ノタメニトリ  
一掃シタキナリト

○  
頃口華清領府ヨリノ一報ヲ得タリ云ク日本  
米國トノ間ニ拵テ新ニ通商約條ヲ取結ブノ企  
アリト此說タルヤ已ニ二三年前ニモ同府ヨリ

報道ミ来リタルトアレモ其云フ所ヲ見ルニ信  
措キカタキモノ多シ尤モ其云ヘル如ク條約改  
正ノ論題ガ多サトナク兩國政府ノ間ニ數ヶ年  
前ヨリ高淺スル所トナリタルハ恐ク信然タル  
モノニ似タリ乍去何レノ政府モ之ヲ実行スル  
ノ点ニ至リシトハ我輩ノ聞カザル所ナリ

### 日本税則改正論

#### 第二篇

夫レ日本ノ税則ヲ改正セザルベカラザルノ証

ヲ指點セバ其例固ヨリ枚舉ニ遑アラザルベシ  
然レトモ又時トシテハ其内實ニ重大緊要ノ類  
例ノ起發スルトアリ左レバ我輩ハ先ツ其重要  
タルモノヲ証明セザルベカラズ不觀ヤ二三週  
前我「タキムス」論者ノ注意ヲ收攬セシモノハ即  
チ長崎ヨリノ石炭ノ輸出ノ趣旨ニテアリキ而  
シテ此輸出ニ於ケルヤ日本政府ハ或ル不規則  
ナルトノタメ（此不規則別ニ「推論」ヲナサザリセシ  
其正ノ收入スベキノ歳入ノ内ニ万弗有余ノモ  
ノヲ收納セサリシナリ又今一個ノ我輩ノ耳目

ニ達セシ<sup>モリ</sup>例タルヤ或ハ少ク此推論外ノ區域ニ  
洩ルアリト云モ一層易暗ノモノニシテ我輩ハ  
其弊害ヲ論及スルニ當リ若シ今ニモテ之レヲ  
抑遏セズンバ徒ニ日本ノ一種類ノ工業ヲ衰滅  
スルノミナラズ遂ニ八九百ノ工業ヲモ疲瘁ス  
ルニ至ラント迄ニ述ベザルベカラズ蓋シ現在  
ニアリテハ青天一朶ノ雲ノ如キモ忽ニシテ滿  
天ノ暴風雨ヲ醸スヤルハ自然ノ常道ニシテ決  
シテ占者ヲ待テ之レヲ知ラザルナリ  
看者ハ我紙上ニ登録セシ近來ノ「ボーン」メー

カゼツト新聞ノ論説ヲ觀ヨ同記者ハ實ニ日本  
ガ現今國民ノ製造力ヲ增益スルニ熱心セル  
状アリテ其目的ヲ達センガタメ保護税法ノ設  
ケヲ要スルノ意アリシ音ヲ掲ケ且又平意虚心  
ニ英國カ日本ノ斯ル手段ヲナスニ付キ干涉ス  
ベキノ利ナキ理ヲ述ベタリシヲ然レトモ同  
記者ガ斯ル寛優ノ論説ヲ公言セシモ全ク其效  
用ナキモノニ屬セルニ似タリ如何トナレバ英  
國ニ在ル他ノ新聞記者皆異口同音ニ英國ガ由  
テ今日ノ利ヲトスル処ノモノハ全ク東洋ニ於

ケル貿易ノ自由ニ在ルナリ故ニ若シ何國ヲ問  
ハス保護税ヲ設ケ之ヲ防碍スルノ企アル場合  
ニハ威力ヲ以テ之ヲ破却セズンバアルベカラ  
ザルナリト公言セリ又或ル主要ノ位地ヲ占ム  
ル製造者ノ言ニ云ク我輩ハ或ル國ニテ通商ノ  
節制法ヲ設クルノ意アルモ之レヲナスノ権力  
ナキノ処ニ向テ其賣取所ヲ搜索セサルベカラ  
ズト而シテ「シヤツパン」<sup>シヤツパン</sup>「其他日本ニ在ル  
外國ノ新聞記者モ皆是説ニ同一ナリ」<sup>シヤツパン</sup>旨ヲ述  
ベタリキ

是等ノ論議ヲ悉トスルノ論者ノ意タルヤ推シ  
テ知ルベシ觀<sup>カ</sup>ヨ<sup>シ</sup>同人ガハ日本ノ内地ノ製造  
バカノ届ク犬ケ之ヲ妨ケ英國ノ物貨ヲハ其製  
造者ニトリ又其貿易者ニトリ利益アルニ上  
方ニテ日本ニ之ヲ輸入スベカラシムル如キノ税  
則ヲ維持スルニアルナリ固ヨリ英國ヲ除キテ  
ハ他ノ外國ハ決シテ如此ノ念慮ヲ抱カザルナ  
リトハ云ヒ難クシテ現ニ輸入品ノ大部分ハ英  
國ヨリ来ルモ多キモ亦他國ヨリノ物品モ  
稍同一ノ程度ニ及ビ且ツ同一ノ懲ヲ遂ケント

スルノ状アリ然レトモ米國ガ日本ノ税額ヲ減  
セント熱心セシテオホク未タ聞カザル所ナレバ其  
之ヲ減セントスルニ汲々タルモノハ英國或ハ  
改羅巴本部ノ諸國ニテアリシト云ハザルベカ  
ラス而シテ往時ハ暫ク措キ今日ニ於テ之ヲ觀  
レバ日本政府ガ其推内ニ在ルノ税則ポールメ  
トルガセツト記者ノ云ヘル如ククヲ其政府ニテ  
改正セントスルノ條約改正ヲ拒ム、最モ甚キ  
モノハ全ク英國タルベシ是レ他ナシ同國ノ斯  
ル所為ニ出ルハ全ク此改正ノタメ自國ノ利害

ニ關係スルモノアルヲ怕レテナリ  
日本ガ専心ニ内地工業ノ利ヲ興創セシメ、  
保護税法ヲ設アラザルモ其之レヲナスノ方便  
ヲカニベカラズト是レ世上ノ論者ノ一般ニ懸念ス  
ル所ナレトモ我輩ヲ以テ之レヲ云ハシムレバ  
日本地内ノ工業ノ妨碍トナルモノハ唯ニ卑低  
ノ税額ト外國ヨリ正當ニ入込レキス、下廉ノ物品ト  
ノ二事ニ止ラザルナラモ併述セザルベカラズ  
トス然ルモノハ他ナシ外國ノ製造者ハ此ボノ  
トニ拘ラズシテ若輩ノ爭競者ヲ壓倒スベキ一

種活澆ノ手段ヲ有スルアレバナリ夫ノ質  
易ノ秘訣ニ熟知スルノ人ニハ是等ヲ解明ス  
ルハ固ヨリ無益ニ属スベシト雖モ不慣不教  
モノニハ一二ノ示教ヲナスモ決シテ不用ニ属  
セザルベシ然レトモ我輩ハ此解明ヲ授クルニ  
方リ英國人ガ平生我輩論者ヲ目セルノ慣手段  
ナルヲ論理ハ措テ問ハス唯我輩ノ登論ヲ此事  
モ英國ヲ敵視スルノ念ニ出タリトスルガ如キ  
妄言ヲ避クルガタメ斯ニ英國ノ学士ノ經濟術  
ヲ掲ケテ以テ其解明ニ充ツベシ

英國カ英國ノ製造ノ権力ヲ維持セシガタメ  
資本ヲ用ユルノ形状ト必ス世人ノ能ク知レ  
所ナルベシ實ニ地球上何レノ場所ヲ問ハス  
少ク争競ノ萌アリテ英國ノ壟斷ニ于海ニシ  
トスルモノアレバ全國ノ製造資本ヲ其場所  
ヘ向ケ多量ノ物貨ヲ同所ニ輸入シ努メテ  
廉價ニ之レヲ賣取レテ其争競ノ途ヲ断ツ  
トテ企テリ且又世人ノ明知スル如ク英國ノ  
製造者ハ隔遠ノ國ニ在ルノ市場ヘ商品ヲ輸  
出シ將來其市ノ利ヲ罔スルノ見込ヲ以テ多



此三行  
記者論  
属スレトモ  
テ書寫ノ  
一字ヲ加  
之ヲキス  
者

年ノ間元價ニテ之ヲ鬻ケルコトアリ云々ト  
又「トレマン、ピール」氏ノ英國下院へ出セル報  
告中ニモ同一ノ状態ヲ慨歎スルノ文字アリ  
今日日本ガ英國ニ睨視サルノ状ハ恰モ右  
ニ引証スルノ状ニ異ナラサル所アリテ反令  
方今日日本ハ新工業ヲ起スノ企アルモ極メテ  
規模狭小ニ又其一二已ニ着業シタルモノモ  
勉勵力ノ非常ナルニアラズモテ到底莫ク  
輸出アリ非常ノ利益アルコトヲ期シカタキ程

ナリ然ルニ斯ク日本ノ新工業ハ幼稚ナルニ  
日本ハ已ニ右ニ述べシ如キ強敵ニ對シ  
場合ニ至リタリ請フ試ニ之レヲ述ベシ日本  
ノ「マツテ」製造ノ業是レナリ前今三四年、デ  
ハ日本ノ使用スル知ノ「マツテ」ハ總テ欧州ヨ  
リ輸入ナリシガ近來日本人ノ争競ヲ始メシ  
ヨリ東京内ニ於テ之ヲ製スルコトナリ輸入  
者ノ賣價ヨリ一層低下ノ費用ニテ之ヲ製造  
スルニ至リ即テ輸入ノ定價一「グロス」  
ニ付六十「セント」ナリシモ日本内地ニ製スル  
百四十個

モノハ「グロス」ニ付キ五十「セント」ノ賣價ノ  
割合ニテ之ヲ製造スルヲ得タリ（勿論相當ノ  
利潤モアリテ）斯ル事状ノ現出セシヤ否外  
國人ハ其輸入ノ「マツテ」ラバ四十五セントニ  
迄減價ヲナセリ（勿論非常ノ損失ニテ）依テ  
又日本内國製造ノ「マツテ」モ止ラ得ズ今一層  
ノ低價ニ減セザルベカラザルノ状ニ至レリ  
然レトモ元來日本ノ製造者ハ未タ耐忍力ニ  
乏キユヘ斯ル類ノ争競ヲ長ク維持スル能ハ  
ザルハ言ヲ待ズ随テ日本ノ市場ハ外國品盈

十

溢ノ場トナシ又日本ノ小資者ハ破産ノ域ニ  
迫ルアリテ外國人が再び其地步ヲ奪ハ  
前日ノ價直ヲ復スルニ至ルアラハ如何ニモ  
歎スベキトナリ若シ夫レ外國ノナズト如  
此ナレバ日本ハ何様ノ工業ヲ企ルモ外國人  
ヨリ之レト同轍ノ奉動ヲ及覆サルハマテニテ  
絶ヘテ成功ノ期ナカレベシ然ラバ則チ日本  
ガ内國ノ貿易ヲ保護スベキノ税則ヲ設ク  
外ハ之レヲ逐スルノ術決シテナカレベキ  
ナリ

世ノ皮相論者、如ク是事情ヲ輕々看過スル  
ノ論者ハ必ス此争競ノ關係スルハ唯外國ノ  
輸入者ト日本ノ製造者トノ間ニ止ルモノニ  
テ消費者ガ低價ニ「マツテ」買収シ得ベキカ  
ケハ一般ノ社會ニトリ幾分カ利益スル所ア  
ルベシト想像スルナラン然レトモ其想像タ  
ルヤ決シテ真然タルモノニアラズモテ良ニ  
ヤ其説ハ自由貿易者流ノ間ニハ普通ノ論説  
ナルカハ知ラカ<sup>トモ</sup>極テ管見井蛙ノ決訥トナサ  
ルベカラズ今其然ル所以ヲ説明セン第一斯

リノ如クナレバト早晚外國人ノ壟斷ヲナス  
ニ至ルハ年ヲ待タス又仮令ハ左モ一キニセ  
ヨ内國ニテ相應ニ製出スベキノモノヲ殊更  
ニ外國ヨリ輸入スルハ一体ノ全社會ニ  
決シテ利益アリトスベカラズ  
千八百七十六年間ニ日本へ輸入セシ「マツテ」  
ハ凡ソ九<sup>百</sup>五千弗ノ價ノモノナリ而シテ此  
總計ノ内ヨリ輸入税トナリテ日本へ戻リタ  
ル高ハ僅カニ五千弗ニ過キズ左スレバ其殘  
額ノ九万弗ハ外國ニ赴キ其輸入ナリニ処ノ

「マツテ」製造者或ハ其運輸者ガ、手ニ落ル  
 アリテ唯其用ヲナス所ハ外國ニ属スルカ  
 役者カ乃至通商人或ハ運搬者ガ、供給ニ備  
 ルノミナリキ及之ニテ此九万五千弗ノ高ラ  
 内國製造ノ「マツテ」買入レ、トニ供シナバ斯  
 ヲ日本ニ止ルノ金額ガ断ヘズ運轉交通シテ  
 他ノ職業ヲモ勸奨振作スルノ「ハ」暫ク指キ  
 此運轉交通即、理由ハ「ア」説ニ云ク内國貿易、  
 入ルニ使、用費品ニ使、用スルハ之ヲ外國ニ輸  
 其運轉交通同一「ハ」外ハトハ外國貿易ニ割合ス  
 故ニ本ノ通同一「ハ」外ハトハ外國貿易ニ割合ス

レ十二

ハ内國貿易トス、用ユルモハ第九、第十、第十四、第十五、  
 在「マ」クトモ其高ノ四分ノ三ハ日本ノ力、役者  
 乃至通商人ガ「マツテ」製造ノタメニ要スル材、  
 抑モ日本ガ「マツテ」製造ノタメニ要スル材、  
 料ハ過半内國ニテ之ヲ并ズルニ是リ、役ノ木  
 材、硫黄、安質母、瓦、如キ之ヲ外國ニ仰クヲ待  
 タス唯外國ヨリ輸入スベキモノハ「ポ」ッター、ス  
 燐、二種ニ過キス加之ナラズ日本ニテハ錫  
 函、張、抜箱、或ハ刷物、如キ工業ヲモ自在ニ  
 振興スルヲ得ベシ左レハ日本ノ貿易ニ供ス

ベキモノ百端ニシテ日本ヲ資本ヲ國內ニ  
止メテ内國ノ工業ヲ誘掖シナバ其利益タル  
ヤ底上スル所ヲ算スベガラザルモノナラシ然  
ルニ空ク之ヲ外國ニ出シ外國ノ工業ノ用ニ  
供セシムルハ豈ニ歎息ノ至リナラズヤ  
我輩ヲ以テ之ヲ觀レバ右ノ結果ニ至ルハ  
第一日本政府ガ其稅則ヲ改正スル能ハザル  
ヨリ淵源ニ來ルモノトセザルベカラズ實ニ稅  
則ノ改正ナキ上ハ假令一日本ガ外國ヨリ正  
當ノ價ニテ輸入スルノ物品ヨリモ尚下廉ノ

レ十三カ

價ニテ物品ヲ製造スルヤルモ其工業ハ到底  
外國人ノ手出ヲ被リテ破滅ニ歸セザルヲ得  
ズ然リ而シテ此破滅ノ影響ノ及ヘルハ狀ハ  
徒ニ其工業ヲ企ルノ資本者ノ破産ニ止マラ  
ズモテ直接ニハ其工業ニ從事スルノ日本ノ  
力役者ノ生活ニ係リ又間接ニハ多サトナク  
此工業ニ縁故アルノ職業ニ係ルモノノ幸福  
ニモ関スルニ至レハ疑ヲ容レズ支レ然リ  
然ラバ則テ我輩ガ斯ク論述セシ所ノモノヲ  
日本ノ條約改正ノ尺リベカラザルノ適例ト

トテ看官ニ報道スルモ敢テ不當ニ属セザラ  
シ歟